

パーティシペーティング・コリドー（輸出：Long Put + Short Call）

概要

パーティシペーティング・コリドーは、ゼロコスト・コリドーを拡張し「上昇の一部に参加（participate）する」設計です。基本形はプットを買い、ショートコールの枚数（比率）を100%未満（ ）に抑えることで、上昇利益の一部を残します。USD受取の輸出企業が、下落ヘッジを確保しつつ上昇の取り分を一定割合確保したいときに用います。

仕組み

1. USDロング（現物受取）
2. Putを購入（下落防御：フロア設定）
3. Callを（ $0 < \text{比率} < 1$ ）で売却（プレミアムでPut費用の一部/全部を相殺）
を小さくするほど、上昇時の参加度合い（取り分）が増える一方、プレミアム相殺は小さくなる。

この戦略を使用する場面

- ・為替の下落リスクを一定水準で限定したいが、完全なゼロコストではなく少しの費用を許容してでも上昇の取り分を増やしたいとき。
- ・相場のボラティリティが高く、ショートコールだけでは上昇機会損失が大きいと懸念されるとき。
- ・将来の為替レートにある程度の上昇余地を見込みつつ、下落時の最低限の保険は確保したいとき。

メリット

- ・下落リスクを限定できる（Putでフロアを設定）。
- ・上昇局面では一定割合の参加を確保できる（ に応じて取り分が残る）。
- ・参加比率 を調整することで、コストと利益参加度合いのバランスを柔軟に設計可能。

デメリット / 留意点

- ・Put費用を完全には相殺できない場合がある（ を小さくするとプレミアム受取が減少）。
- ・一定以上の上昇はショートコールにより利益が制限される。
- ・ショートポジションに伴う証拠金負担や評価損リスクがある。
- ・早期権利行使（アメリカン型オプション）のリスクに注意が必要。

損益イメージ

- ・Kp未満：Putで損失が限定される（フロア）。
- ・Kp ~ Kc：現物の上昇益を享受（プレミアム分は控除）。
- ・Kc超過：ショートコールが発生するが、 < 1 の分だけ上昇の取り分が残る（部分参加）。

まとめ

パーティシペーティング・コリドーは、輸出企業が「下限を確保しつつ上昇の一部に参加」できる柔軟なヘッジ手法です。参加比率 とストライクの設計により、コストと機会損失のバランスをきめ細かく調整することが可能です。